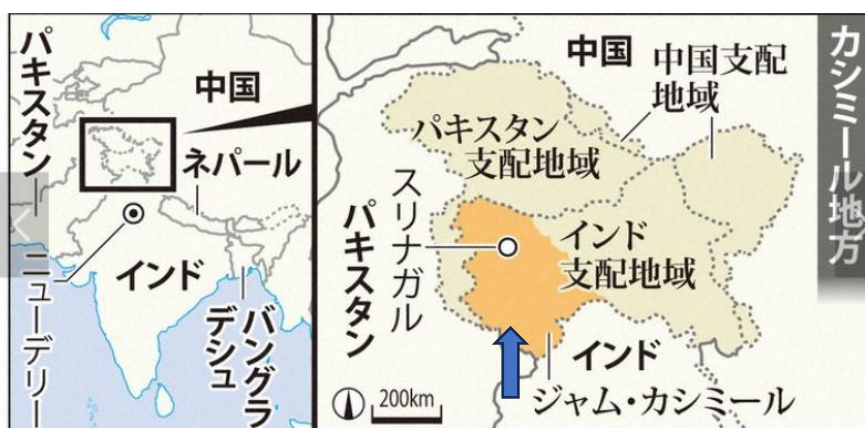


インド・カシミール地方に鉄道橋建設【535号】

2023年 8月 石館

インド北部カシミール地方で建設が進む鉄道橋（シェナブ鉄道橋）の開通が近づいている。パキスタンや中国との国境近くにある係争地域との往来をやすくする戦略的なインフラとの位置づけで、農作物の輸送や軍の移動に要する時間は現状の5分の1程度になる見通し。



矢印の先が建設中のシェナブ橋の場所

インド鉄道省によると15年かけて建設作業を進めてきたシェナブ鉄道橋は1

2月末か来年1月の開通を見込む。

全長は1315m、高さは359mと、パリのエッフェル塔より29m高い。総工費は1億ドルを超えるという。

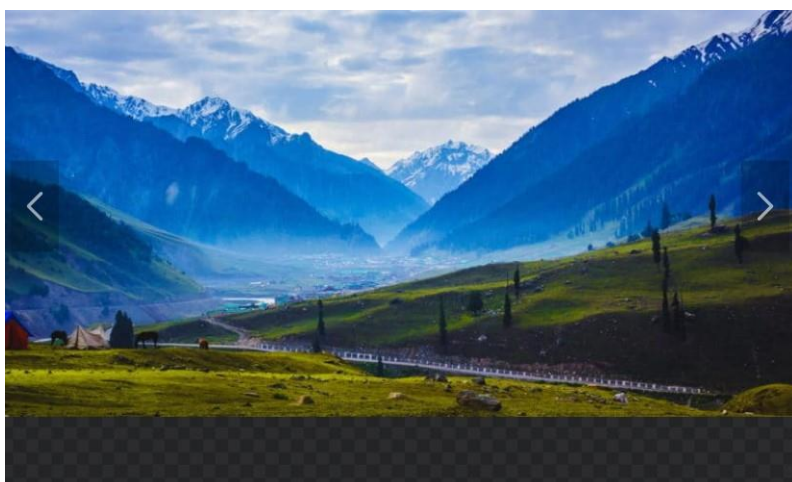
何故この場所カシミールに膨大な工費と年月をかけて橋を建設しているのだろうか。

カシミールはインダス川上流の山岳地帯。広い意味のインドの一部であるが、古くからヒンドゥー教、イスラム教、シーク教などが入りまじり、19世紀にはイギリスに支援された藩王国が成立した。第二次世界大戦後、インド、パキスタンが分離独立したとき、ヒンドゥー教徒・イスラム教徒が混在している地域であったため、帰属問題が生じ、現在も係争地域となっている。

現在のパキスタン北部とインド北西部にまたがるカシミール地方は、イギリス統治時代は藩王国とされ、国王はヒンドゥー教を奉じていたが住民の多数は

イスラム教徒であった。1947年、インド・パキスタンが、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒が分離して独立した際、カシミール藩王はインド帰属としたが、住民のイスラム教徒がそれに従わず紛争になった。インド・パキスタン双方が領有を主張し、同年のうち早くも第一次カシミール戦争が起こった。その後も、1965年の第二次のインド・パキスタン戦争の原因となった。現在も両国の国境線は確定しておらず、対立が続いている。

カシミール地方はインド亜大陸の北西部、インダス川の最上流域にあたり、高峻なヒマラヤ山系の西端に深い谷が刻まれていて、素晴らしい山岳景観を想像できる。



しかし現在は紛争地帯であるために自由な観光旅行は出来なくなっている。小生はニューデリーには何回も入ったことがあるがカシミール地方には入ったことは無い。カシミール地方は人を寄せ付けな

い神秘的なイメージが強いが、自然環境が人間を寄せ付けないのではなく、国境紛争という人間の争いが人間の自由な往来を拒否している。

シェナブ橋の最大の特徴はその立地だ。同橋は領有権についてパキスタンと長年にわたって対立しているカシミール地方に位置するだけでなく、国境を巡って中国と緊張関係にある北部ラダック地方に接続する交通上の要衝となる。

軍事力においても、地域の商取引・観光においてもシェナブ鉄道橋はまさにゲームチェンジャーになる。カシミール地方の住民がリンゴやその他商品を輸送するのに役立つと同時に、インド軍が部隊や装備を迅速に移動させる手段にもなるという。

カシミール地方のうち、インド側支配地域の主要都市スリナガルへとつながる主要な高速道路は現在1本しかない。ただこの道路は大雨や土砂崩れの影響を

受けることが多く、民間車両や軍車両の通行をしばしば拒んできた。関係者は“高速道路が不安定になりやすい冬場にも活躍するだろう”と鉄道橋の開通に期待を寄せる。



インド軍の元幹部は、鉄道橋の完成により、12 - 16時間かかっていたジャムとスリナガルの北部2都市間の移動が3時間で済むようになる、と説明する。この地域では交通インフラに対する攻撃の前例があり、この橋は構造の頑丈さにも気を配る。厚さ63ミリメートルの特殊鋼やコンクリート製の柱で爆発に耐えるほか、マグネチュード8の地震にも動じない設計にしてあるという。

6月には橋の上で“国際ヨガの日”の関連イベントが開かれるなど、すでにインド国内の関心は高まっている。一方、現地のイスラム教住民からは、この橋の開通を警戒する声も聞かれる。ヒンズー教が多数派を占めるインドにあって、この橋は中央政府の統制強化に繋がりにかけないという。

2019年8月、インドのモディ首相はジャムー・カシミール州に70年前から認めていた自治権をはく奪することを明らかにした。ヒンドゥー教徒が8割

を超えるインドで、ジャムー・カシミール州だけは人口の大半がイスラム教徒であるため、インド憲法によって一定の自治が認められ、外交・防衛・財政・通信を除く分野では州が独自の政治を行っていた。今回の措置はこの規定を改正する大統領令をまず発表し、そのうえで憲法改正のための法案や決議案を議会に諮って可決される見通しで、改定されれば同州はインド中央政府の直轄統治とされることになる。



インド政府からみれば橋の完成は明らかにインドの安全保障とカシミール地方の一体化の強化につながる。

しかしカシミール地方に住む多くのイスラム教徒の観点からすれば憂慮すべき動きと言える。橋の完成がまた新たな紛争の出発点になり

かねない。

P.S；高級毛織物カシミアはカシミール地方のカシミア山羊の毛を紡いだことに由来する。